

乳がん診断

田中三郎助教授

SQUID 超電導量子干渉素子の略。ある種の金属を超低温になると電気抵抗がゼロになる超電導現象を利用している。地磁気の一億分の一~十億分の一という非常に微弱な磁気を検出できるのが特徴。イットリウム-バリウム-銅系など高温で超電導になる金属を使ったものも開発され応用範囲が広がっている。

文部省まとめ
うかになった。睡眠時間別で
は、五十年前半の男性を除いて
て八時間以上眠るの方が体力
が劣っていたケースもあつた。
一方、未成年は一部を除いて
今回も記録が低下し、長期低
期低落傾向に歯止めがかかる
なかつた。反復横跳びなどで
は、特に高校受験期に当たる
十五歳前後の結果が落ち込ん

受験勉強で運動不足
15歳前後が落ち込み

未成年
低下統く

などと体格、体力との関連性を調べた。
朝食との関連では、六、八、九、十三、六十五、一九四歳の男子、七、十二、十九、二十一、二十九、六十四歳の女子で「毎日食べない」と回答した人の体力がストレート合計点が最も高かった。年代によって「毎日食べる」が上だったり、「時々食べる」が上だったり、「トップのこともあり、い」がトップのこともあり、

が続いていた。成人では、反復横跳びの記録が向上し、握力などは停滞気味だった。

朝食抜きでも体力無関係

文部省では体力テストの禁
ており、受験による運動不足
の影響も浮かんだ。

車の運転技術がよくなると体力もよくなる。しかし、体力に差があるとは言えなかで体力に差があることは言えない。なぜかと聞かれたとき、私は「運転技術がよくなると体力がよくなる」と答えた。

ハ筋が、かん細胞に侵され
ているかどうかを調べる新
しい乳がん検査法の開発に
成功した。今後、動物実験

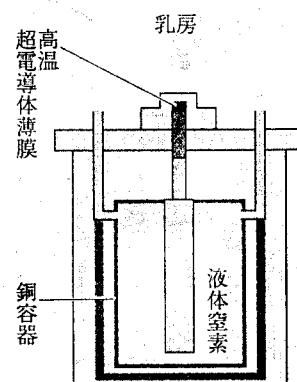
従来の放射性同位元素を利
用する方法では被ばくがネ
ックだっただけに、医療関
係者や患者に即座となる
乳がんの患者から病巣を利
用して摘出する際、周囲のリンパ
節もがん細胞に侵されてい

被はくの不安解消 助教授ら

がん診断

超電導セミナーを開催

豊田が開発した超電導ケンサ一



研究グループの方法は、直徑一万分の一ミリの酸化鉄の微粒子を含む液を乳房の病巣に注入、弱い磁場をかけ超導体を使ったSQUID

SQUI-Dは従来、マイナス二十六度という超低温ストなど問題を抱えていたが、SQUI-Dは従来、マイナス二十六度という超低温法だ。放射性同位元素はまだ国内では新しい技術だ。

節を調べるだけで九五%の正確さで診断ができる。しかし、これまでには放射性同位元素を注入してガンマカウンターで検出、センサルを特定していたが、患者はじめ日常的に診断に用いた。この後、センチネルだけを摘出してがん細胞の有無を確認する。その後、センチネルだけを摘出してがん細胞の有無を確認する。日本乳がん学会評議員会井常夫・名古屋大医学部第二外科助手の話センサル

